

<(18996) “寅さん(Torasan)” の星が誕生>

札幌市厚別区 渡辺 和郎 (54)

小惑星センター(米：ケンブリッジ市)、2009年8月6日発行の「小惑星回報」(Minor Planet Circular)によって、「寅さん」という小惑星が誕生しました。

(18996) Torasan

(18996) Torasan = 2000 RR53

Discovered 2000 Sept. 4 by K. Watanabe at Sapporo.

Japanese actor Kiyoshi "Tora-san" Atsumi (1928-1996) is known for his roles in the film *It's tough being a man* and in the "Tora-san" series, of which there were 48 installments during 1969-1995.

The Tora-san series became a huge success in Japan and received a National Honor Award in 1996. M.P.C. 66 724 2009 AUG. 6

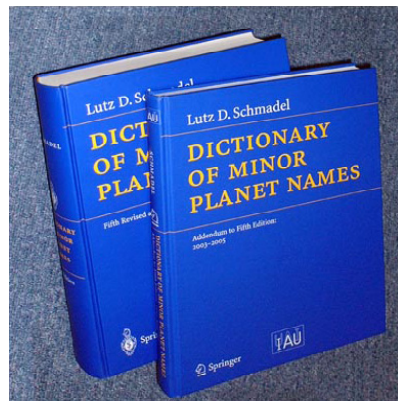
[小惑星回報] (2009年8月6日発行) で公表された“寅さん”の命名文

私たちの住む“地球”は [惑星] という天体の一つですが、現在、地球を含め8つの大きな惑星が太陽の周りを回っています。近年、その中の火星と木星の間(空隙)に小さな惑星が多数発見され、小惑星と呼ばれています。惑星は、もともと塵のような存在から小石、小石から岩、岩塊から大きな天体・惑星へと、衝突・合体を繰り返しながら成長したと考えられています。何らかの原因で成長しきれなかった集団、つまり、未だ太陽系形成時の原始の姿をとどめているのが小惑星だと考えられています。最近、その一部に地球軌道と接近遭遇するものも発見され、もし、地球と衝突すれば人類滅亡の危険をはらむほどの破壊力をもっているため、世界各国が協調して危険な小惑星の捜索を行っています。

現在、正確な軌道の登録されている小惑星は20万個以上。当初はギリシャ神話やローマの古典に登場する女神の名前を付ける決まりでしたが、300個を超える辺りから女神の名前が足りなくなっていました。そこで、星の名前では唯一、発見した者に自由な名前を命名委員会に提案する権利を認めています。天文学者や科学者、そのゆかりの地名が大多数を占めていますが、会社名やペット、キャラクターや政治家の名前は基本的に禁止及び制限しています。その中で俳優の名が付くのは極めて珍しいことです。

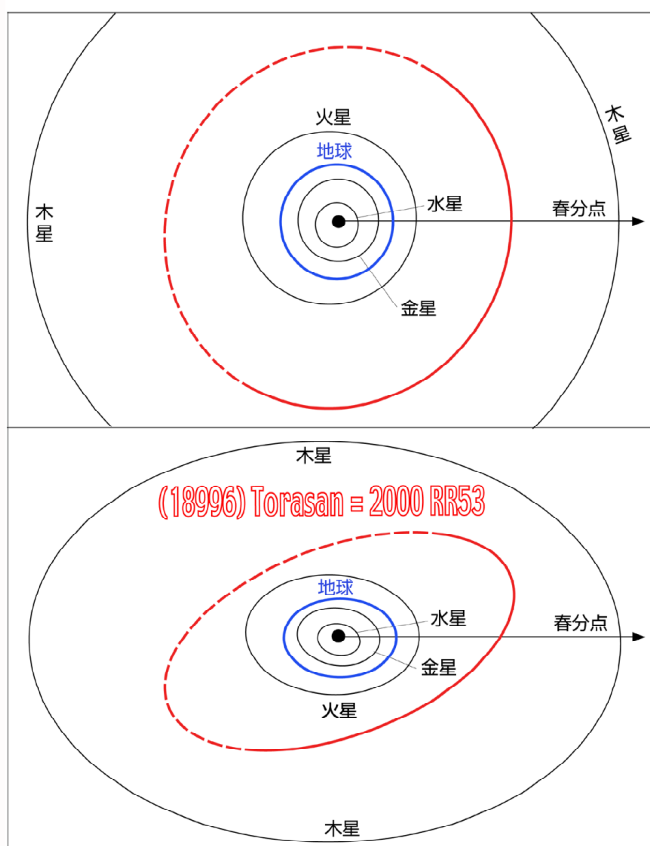
世界各国の天文学者が集まる「国際天文学連合 (IAU : International Astronomical Union)」では、天文学に関わるあらゆる決議が行われています。最近の話題として、冥王星を太陽系の惑星から降格し、その数を八つにすることを採択しました。太陽系の小天体名は、同連合第 20 委員会傘下の“太陽系小天体命名委員会”の審査を経て公表されます。この名前は夜空に輝く七夕で有名なこと座の 1 等星“ベガ”や、さそり座の“アンタレス”などと同じく、世界共通の星の学術名となります。

小惑星の名前は 3 年に一度 (IAU 総会開催年) 更新される『小惑星名辞典 (Dictionary of Minor Planet Names : 現在第 5 版・増補版)』に収録されます。名前は人類 (文明) が存在する限り未来永劫残されるものです。



小惑星命名辞典第 5 版と増補版

小惑星の登録番号 18996 番“寅さん”は、2000 年 9 月 4 日に札幌市在住の渡辺和郎 (54) が発見しました。発見後の長期に及ぶ追跡観測によって軌道が正確に決まり、計算によっていつでもその位置を知ることができます。小惑星“寅さん”の大きさは直径 15km ぐらいで、太陽の



周囲を 5.72 年かけ回っています。

この命名は、発見者である渡辺和郎が高校生の時代からの映画“男はつらいよ”シリーズの寅さんファンで、全 48 作品を見ていることに始まります。今年 4 月 23 日に念願かなって葛飾柴又の帝釈天を訪れ、柴又駅前の寅さん像の前に立ったとき、その名を永久に残すため星に命名することを思いました。そもそも、俳優・芸能人の名が星に付くことは極めて珍しいことで、命名委員会の許可が下りるか心配でしたが、無事承認され安堵しました。ぜひ、この命名を広く知ってもらい、

“寅さんが星になって輝いている”ことを皆さんに喜んでもらいたいと思います。

男はつらいよ

山田洋次監督・渥美清主演で1969年から1995年までの26年間に48作品が公開され、国民的人気シリーズとなった松竹映画“男はつらいよ”。

主人公「寅さん」が演じる“男はつらいよ”シリーズは、1968年にテレビ番組として誕生しました。渥美清氏が少年時代に見た“テキヤ”たちの思い出をヒントに、山田洋次監督がイメージをふくらませたものでした。誰もが笑い、元気になれる日本人の心を描きつづける同シリーズは、主人公の名前から作品自体が「寅さん」の愛称で呼ばれることも多く、現在でも幅広い世代から愛され続けています。



物語は渥美清氏演じる主人公“フーテンの寅”こと車寅次郎が、約20年ぶりに故郷の葛飾柴又に戻ってきたところから始まり、以後、寅次郎の腹違いの妹さくら、亭主のひろし、おいちゃん、おばちゃん、裏のタコ社長らが集まる「だんご屋」を中心に、寅次郎が訪れる日本各地で出会う“マドンナ”とのみのらぬ恋が人情喜劇となって展開していきます。

“男はつらいよ”は、ほろっと涙をさそう下町の気さくな人間関係と、消え去る日本各地の原風景が見どころとなっています。1983年“一人の俳優が演じたもっとも長い映画シリーズ”としてギネスブックに認定され、渥美清さんには1996年国民栄誉賞が授与されました。

2009年8月6日